事業所名　ふみ月チャレンジ染地

# 支援プログラム

作成日　令和７ 年　４ 月　１ 日

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 法人（事業所）理念 | 利用者それぞれの「自立」に向け、様々な障がいをもつ一人ひとりの発達に応じてきめこまやかな療育を行う。<br>利用者が新しいことや困難な課題にもとりくみ、それを通して「生きる力」を育て、認められ喜びを自信につなげることをめざす。<br>実践にあたっては、信頼関係を構築しながら各々の実状をできる限り客観的に把握し、スモールステップを踏みつつ、具体的に、緻密に、なおかつ確実に身につけていけるようにすることを大切にする。<br>そして、一人ひとりが"誇り"をもって生きていけるようなとりくみを心がけ、謙虚に、柔軟に、高い専門性をめざす。<br>また、ノーマライゼーションの理念の下、ごくあたり前に、生き生きとした社会生活を送れるよう地域の中で理解を深めると共に、地域社会とのつながりを大切にする。 | | | |
| 支援方針 | ○基本的生活習慣を獲得する。<br>生活する上で基本的な生活習慣の獲得をめざしてとりくむ。日々の活動を通して、衣類の着脱や食事・排泄・入浴・手伝い・持ち物の管理等の指導を行う。<br>○集中する力・持続する力を身につける。<br>苦手意識を払拭し、もてる力をできる限り引き出すようなとりくみをこころがけ、ものごとにとりくむ姿勢をつくり、また、感情をコントロールする力を身につけ、集中力や持続力を培っていけるようなとりくみを行う。<br>○一人ひとりに応じたコミュニケーションの力を身につける。<br>日常の様々な場面を通して、挨拶や呼びかけ、または感情や欲求の表出等コミュニケーションをとる為の一人ひとりの実状に合った「生きた言葉」を場面に応じて使えるようにとりくむ。<br>○対人関係・社会性・柔軟性を高める。<br>新しいことや困難なことにも一生懸命とりくむ姿勢を育てることを大切にしながら、様々な行事やプログラムに参加することを通して経験の幅を広げ、コミュニケーションの力や社会性を養うことをめざす。 | | | |
| 営業時間 | 平日：１０時～１７時３０分　学校休業日：１０時～１６時 | 送迎実施の有無 | (あり)　なし | ※利用者の実状に合わせ自立に向けたとりくみを行う際は実施しない場合がある。 |

| | | 支　援　内　容 |
|---|---|---|
| 本人支援 | 健康・生活 | ○基本的生活習慣（着脱・排泄・食事・手伝い・持ち物管理等）を獲得する。<br>○情緒の安定をはかる。<br>○ものごとに対する苦手意識を払拭し前向きにとりくむ姿勢をつくる。また、課題に一生懸命にとりくみ、褒められ認められることで自信につなげる。 |
| | 運動・感覚 | ○集団・個別運動（微細運動・粗大運動・ストレッチ・体幹トレーニング・歩行・マラソン等）、プール活動（毎週月曜日）、リズム運動、創作ダンス、ダンス（講師を招いて３カ月に一度程度）等を行うことで身体機能の維持・向上等を図る。<br>○音楽療法（月２回）やコンサート（月１回）を通して、情緒の安定や身体機能の向上、リラクゼーションを図り、また、音楽を楽しむ。<br>○読み語り（月１回）を通して集中して見聞きする力や想像力や理解力、情緒等を育てる。 |
| | 認知・行動 | ○様々な活動を通して集中力や持続力を身につけたり、感情をコントロールする力を身につける。また、様々な概念を獲得する（数・空間・時間・比較・同異等）。<br>○一人ひとりの実状を客観的に把握し、各々にあった認知の力を高める。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 言語<br>コミュニケーション | ○集団・個別活動を通して、言語表出・ジェスチャー・絵カード・文字カード等利用者一人ひとりの実状にあったコミュニケーションの力を身につける。また、それにより「挨拶」・「返事」・「呼名」・「欲求」・「心情」・「意思」等を表出したり、利用者によっては就労を見据えて「報連相」のとりくみや場面や相手に応じたコミュニケーション能力を身につける。<br>○スタッフ・ボランティア・地域の方々とのつながりを大切にし、様々な人と関わることでコミュニケーションの幅を広げ経験の幅を広げる。 |
| | 人間関係<br>社会性 | ○スタッフ・ボランティアの方と様々な活動を通して信頼関係を築く。その関係性により、初めてのことや多少困難なことにも挑戦し、褒められ認められることで充実感や達成感を得る。また、自分でできることを増やし、自信につなげる。<br>○こだわりを改善し、柔軟性を身につける。<br>○外出の際は公共交通機関を使用し、マナーを学ぶと共に社会性を身につける。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 家族支援 | 保護者の方と家庭の様子を共有し、利用者本人だけでなく必要に応じてご家族（両親や兄弟等）に寄り添いながら支援を行う。 | 移行支援 | 将来に向けて、利用者一人ひとりの実状に合わせて、課題を設定し個別的なとりくみを行う。<br>その際に、保護者や学校ともできるだけ連携をとりながら行う。<br>また、卒会する際には就労先の事業所への引継ぎを行い就労後も必要に応じて利用者の方の様子を共有しながら連携をとる。 |
| 地域支援・地域連携 | ○地域のイベントに積極的に参加する（調布福祉まつり、パラアートちょうふ等）。<br>○地域のボランティアの方にご協力いただきながら活動する（月１回の紙芝居や本の読み語りやコンサート、もちつき等）。<br>○活動を通して地域にある商店に買い物に行ったり、ウォークラリーで地域の方々との交流の機会をつくる。<br>※その他、近隣の方々への挨拶や交流の機会を大切にし、できるだけ利用者の方と一緒に行い理解を深める。<br>○「ちょうふ福祉災害ネットワーク」に参加し大規模災害が発生した際に近隣施設と連携できるよう努める。 | 職員の質の向上 | ○月１回の合同カンファレンス<br>○内部研修（療育について、障がい者虐待・権利擁護について、年２回外部の講師を招いた研修、BCP等）<br>○外部研修（都主催の研修、調布市福祉人材センターの研修、その他療育や医療の研修等）<br>○資格取得の為のサポート |
| 主な行事等<br>（第１・３土曜日、学校休業の療育活動） | ハイキング、味覚狩り、プラネタリウム、陶芸、地震体験（立川防災館）、卒会生との交流、卒会生を囲む会、運動（体育館を借りて）、合同作品作り（アート展に出展）、国立科学博物館、年賀状作り、クリスマス会、調布福祉まつり、もちつき、年賀状作り、コンサート、防災訓練・引き取り訓練、梅見、外食、ウォークラリー、卒会生を送る会、選択プログラム、調理、宿泊訓練（同法人の「ふみ月の家」事業）　等<br>外出の際はできるだけ公共交通機関を使い、利用者がマナー等を学び社会性を身につけられるようなとりくみを行う。また、毎回ボランティアの方に協力をいただいたり地域の方と交流できるような活動を計画し利用者が様々な方と関わる機会をつくる。 | | |